

## 選外佳作の三

# かつぼと蛙

鯖江幼稚園 山本ユキ

或るお家に愛子さん云ふお嬢さんがありました。此のお嬢さんは、大へん、足のお行儀がわるくて、いつもくお母さんに

「お下駄は揃へて脱ぎなさい」

こいはれて居りますが、忘れては、お下駄をバラくにして、お家へ這入つてしまふのでした。或る日、お父様がお土産に、愛子ちゃんに、かあいゝ美しい、赤いかつぼ下駄を買つてきて下さいました。かつぼの中には、鈴がついて居り、歩く度に、チャリン／＼と、音がしますので、嬉しくて／＼たまりませんでした。もらつた日などは、枕もこへ揃へてねんねしました。

毎日くかつぼを大切に履いて遊んでゐます内に、愛子ちゃんは又忘れて、アチラへ片方、コチラへ片方脱いで、お家の中へ、は入つてしまひました。

お隣のお家には、ボチミ云ふ犬がゐました。いつも愛子ちゃんのお家へ遊びにきました。今日も愛子ちゃんのお家へ遊びにボチが行きますよ、かあいゝかつぼが一つゐます。餘りかあいらしいかつたので、ボチはかつぼを叩へて、お庭へ遊びに出ました。さうしてかつぼミ廣い廣いお庭の草の中で、チャレタリして遊んで居りましたが、ボチはお腹がへつたので、カツボに「左様なら」ミ云つて、お家へかへつてしまひました。

かつぼはボチミ遊んでゐたので面白かつたが、獨りになるミ急に淋しくなりメソメソ泣き出しました。そこへ、ピョン／＼ミ、蛙さんが喜んできました。蛙は

「かつぼさん／＼ そんなに赤い良い着物を着て、何でなくて、ゐなさる」  
ミき／＼しました。かつぼは涙をふいて

「私ねお嬢さんの玄関にゐましたら、お隣りのボチさんが来て、此の廣い、お庭へ連れてきて下さつたの、そしてボチさんミ、面白く、遊んでゐましたが、ボチさんは、私を置いてお家へ歸

つてしまつたの、私は獨りで、かへられないので悲しい」

と云ひました。蛙は之を尋いて、かはいさうだ、何ぞかして助けて上げたいが、私はかつぼさんを、連れてゆく事は出きないし、兩手をくんで、お目々をつむつて考へました。蛙はハタミ手を打つた「そうだ」を、ピョンン〜と鳥さんのお家へ行きました。

「鳥さん〜何卒、彼のかつぼさんの側の木へきて、「カア」をないて下さい」  
さたのみました。鳥は

「ハイ今すぐ行きます」

と云ひました。今度は、ピョンン〜と丸い、お窓のある、鳩さんの、お家へ行きました。

「鳩さん〜何卒、かつぼさんの側の木に止つて鳥さんの次ぎに、「ボウ」を鳴いて下さい」  
と、頼みました。鳩さんは、「ハイ今すぐ行きます」と云ひました。今度、鶏さんのお家へ行きました。

「鶏のお母さん〜、何卒かつぼさんのよこで、鳥さん、鳩さんの次ぎに、コ、を啼いて下さい」

ご頼みました。ハイ／＼今すぐ行きますこいひました。

蛙さんが、カッポさんの處へきた時に、鳥さんも鳩さんも鶏さんもきて、まつてゐました。

蛙さんはお行儀良く坐つて、おねがひしますこお手々をついてたのみますこ。

「カァツ」「ボウ」「コ、」、「カァツ」「ボウ」「コ、」

ご相替りになきました。

愛子ちゃんは少ししたつて外へ出やうこしますこ、カッポが片方ありません、吃驚して探しましたがもうありません。愛子ちゃんは、さう／＼大事なかつぼが、なくなつたので泣き出しました。する／＼こからか、

「カァツ」「ボウ」「コ、」／＼云ふ聲がしますので、背を伸して、其の方を見ますこ、草の中に、赤い／＼カッポが泣いてゐます。愛子ちゃんは跣足でかつぼを連れに行きました。かつぼの體が汚れていましたので愛子ちゃんはきれいに拭つてやりました。蛙さんは、鳥さん、鶏さん、鳩さんにお禮をいつて、うれしさうにお家へかへりました。